

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	グループホームゆうとぴ庵摂津・千里丘		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府摂津市千里丘東一丁目13番7号		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果市町村受理日	平成25年5月2日

## 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会との交流を進めるべく本年度も引き続き地域の夏祭りや神社の秋祭り、自治会の防災訓練や運動会など行事への参加を積極的にさせていただいております。3年前から摂津市認知症支援プロジェクトに参加させていただきボランティアの受け入れや回想法の講座など取り組んでおります。また夏には社会福祉協議会や他事業所様と合同でなつかしカフェという地域イベントを行わせていただきました。地域の皆様やボランティア様にもご参加いただき紙芝居など楽しんでもらっています。施設内でも様々な行事やレクレーションを企画しグループホームとしての日常と楽しみのある生活の実現を目指して取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

利便性に恵まれた住宅地域の中に位置する施設は、地域と交流を持ちながら、事業所の機能を活かして職員を講師派遣して地域還元を行い、地域から必要とされる施設として定着している。利用者と共に地域の夏祭りへの参加や、近隣住民との日常的な挨拶・避難訓練実施を一緒に行い交流を持っている。駅前での交通の便も良く、店舗も多い立地条件を生かし、買い物も地域で行い地域とのつながりを持ち続けている。食事作りはフロアで調理から行い、季節に合わせたメニューで食事の匂いや調理する雰囲気を感じながら過ごすことが出来ている。利用者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて刻みやミキサー・トミミなど食材の硬さやその日の咀嚼や嚥下の状態に応じて調理を工夫している。身体状況の変化や機能低下が見られる中、外出希望があれば出来る限り速やかに散歩や外出が出来るように支援し、外出や散歩に出かけることを嫌がる方でも家族と相談しながら外出の機会を持つように取り組んでいる。近隣の保育施設との交流の機会も持ち、外で過ごす機会を持っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念共有のため詰所などに掲示し全職員が意識を持って実践に繋がっています。</p>	<p>理念は掲示していつでも見て確認しながら日々のケアを行うことができるようにしている。職員の離職が少なく理念は浸透している。ミーティングや申し送りの機会には、ケア実践の中で理念に基づいたサービスの提供や支援が行っているか話し合い、理念を具体化し意識して感動ある介護の実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域行事への参加、地域ボランティアを活用し傾聴や回想法なども実施しています。</p>	<p>摂津市と共に「認知症プロジェクト」が実践されており、事業所の機能を活かして職員を講師派遣して地域から必要とされる地域還元を行っている。地域で活動する認知症ボランティアの方への知識向上を目的に、地域の他事業所と共に講座開講も行っている。利用者と共に地域の夏祭りへの参加や、近隣住民との日常的な挨拶・避難訓練を一緒に行い交流を持っている。「介護の日」に事業者連絡会を当事業所が主催で行っており、事業所から地域へ向けて認知症への理解が深まるように関わりを持っている。市の認知症プロジェクトを活かして地域の方に来所してもらい、地域とより多くの交流の機会を持つよう取り組んでいる。駅前での交通の便も良く、店舗も多い立地条件を生かし、買い物も地域で行い地域とのつながりを継続している。</p>	

3	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症ボランティア講座の開催や、なつかしカフェなどのイベントを通じ理解を深めています。</p>		
4	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催し、ご意見等を頂きサービスの向上に繋げています。</p>	<p>摂津市保険福祉部高齢介護課係長、地域包括支援センター職員、自治会長、家族代表者に出席の下、年6回開催している。会議では事業所の活動内容・今後の予定の報告を行い、参加メンバーから助言や要望を聴取している。自治会長からの地域で開催される行事の情報提供により、利用者と共に参加し地域交流を深めている。運営推進会議の機会を活かして事業所での課題や問題等への意見や提案をもらいサービスや運営に反映させている。</p>	
5	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>認知症支援プロジェクトに参加し市町村と連携してボランティアの育成などに取り組んでいます。</p>	<p>運営推進会議への市職員の参加で事業所の状況を把握してもらっている他、認知症支援プロジェクトで市との連携を図り地域への貢献をおこなっている。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践                  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について研修を行い日常のケアで実践しています。</p>	<p>年間の研修計画の中で「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」について学ぶ機会を持ち、拘束をしないケアを実践している。研修の中では実際の事例を挙げ、話し合い、虐待・拘束についてケアの場面で活かすことが出来るように取り組んでいる。言葉使いや声かけ、対応など拘束や虐待につながりそうな場面が見られた時には、職員同士で注意をし合う関係が構築されている他、管理者からも注意が促されおり拘束を未然に防ぐよう取り組んでいる。利用者の権利擁護について重要と考えており、地域包括支援センターで主催している権利擁護の研修会に参加したり、事業所内で実際の事例のグループワークを行っている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底                  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修やミーティングなどで学び全職員が意識を持って防止に取り組んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用                  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部、外部の研修やミーティングを通じて学ぶ機会を設けています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得                  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>本人様・ご家族様へは誤解が生じないよう十分な説明を行っています。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来庵時にご意見・ご要望を伺うように努め且つ家族会や意見箱などで情報の収集に努めています。</p>	<p>面会で家族が来訪された時には、職員から声かけを行い意見や要望・不満などを言いやすいな雰囲気作り、関係作りを行っている。運営推進会議や家族会で意見や要望・提案が出される機会となっている。意見箱も設置している。毎月書面や写真で利用者の近況報告を送る際に、家族の意見や要望が出しやすいように工夫している。家族が遠方で面会やケアプラン作成時にも来訪しにくい時には、郵送などで意見や要望が出されることもある。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の意見や提案を各委員会など通じてヒアリングを行い反映に努めています。</p>	<p>日常的なケアの場面や各委員会・フロアーミーティングの機会などに意見や要望・提案が出されている。特に委員会では具体的なサービス内容や運営等に対する意見や要望が出される機会となっている。管理者へ直接意見や要望・提案を言い易い雰囲気作りにも配慮されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>向上心を持って働けるようスキルアップの機会や資格手当など設定し環境整備に努めています。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個別の研修機会を確保し育成を行っています。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との合同のイベントや活動を行いサービス向上に努めています。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行いご本人様の思いを確認しながら関係作りに努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様のご希望や質問などしっかりと対応信頼関係の構築を図っています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族様から必要とされるサービスの提供を支援しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションなど共同作業を通じて信頼できる関係が築けるよう心がけています。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様のより良い暮らしを一緒に考え感じたこと等のご意見を頂くようにしています。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人などいつでも気軽に遊びに来て頂いています。	知人・友人の面会時にはゆったりと過ごせるように努めている。家族の了承を受け、面会の知人や友人との外出も楽しめるように配慮している。馴染みの場所にも希望に応じて外出支援している。

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>皆様がより良い関係を築いて頂けるよう雰囲気作り等に配慮しています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後もご家族様と連絡を取り必要に応じて支援行っています。</p>		

**Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人様の意思決定を大切にし、困難が伴う場合でも本人本位の検討を行っています。</p>	<p>利用者とは日々関わる中で、その都度利用者の意思確認を行うように心がけ、把握するようにしている。家族から以前の利用者の生活状況や暮らし方等の情報提供を受け、利用者の立場で思いや意向・希望等を話し合い検討し把握している。利用開始時に家族や関係者から利用者の生活状況や暮らしぶりの情報を聴取し情報収集し利用者の思いや意向・希望を把握するように努めている。把握できた利用者の思いや希望・要望や申し送りで職員同士で共有を図り、必要に応じて計画作成に活かし支援している。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人様、ご家族様とのカンファレンスなどから生活歴などヒヤリングを行い把握に努めています。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人一人の状態を見て有する力を発揮いただけるよう努めています。</p>		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングなどを通じ様々な視点から課題やケアのあり方を検討しています。</p>	<p>3カ月に1回プランの見直しを実施している。センター方式を利用して、心身の情報・焦点情報(私が出来ること・出来ないことシート)(私に分かること・わからないことシート)で作成した書式でアセスメントを実施し「施設サービス計画書」の作成を行っている。ケア実施表で日々の短期目標の実践状況を確認を行い、毎月ニーズ・短期目標に基づきモニタリングを実施している。モニタリングの結果、修正が必要な場合には適宜計画の見直しを実施しているが、定期的には3カ月に1回計画の見直しを実施している。モニタリングは職員が日々の関わりの中での気づきや意見を計画に反映させるために全職員で実施している。利用者の様子の要約は、食事報告書・排泄チェック表・バイタルチェック表・往診表・服薬確認表で確認して施設日報に記載されている。日々の利用者の様子は介護記録に詳細に記載されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人日報、ケア実施表、申し送りなど情報の共有に努め意見を出し合っています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様や家族様のご希望など伺いながら取り組んでいます。</p>		

29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れ等にも取り組んでいます。</p>		
30 11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診及び通院時の対応など希望に沿った支援を行っています。</p>	<p>内科は同建物にあるクリニックに往診や受診することができる。また、眼科等別の科の受診が必要な場合には希望の医療機関に受診できるように支援している。往診は週に3回と訪問看護を受け病状や健康管理を行っている。病状に問題のある場合には、往診医に電話で相談し往診や受診を行い適切な医療を受けることができる体制が整えられている。皮膚科も同建物内のクリニックで必要であれば受診できる。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>定期的に日常の状態を伝え個別の対応を支援しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>早期退院に向けて相互に必要な情報交換を行い関係作りに努めています。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時の説明だけでなく相談があった時には意見を伺い方針を立てています。</p>	<p>重度化・終末期に向けた方針については明文化している。契約時より重度化・終末期に向けた方針の説明を行い契約時点の利用者・家族の意向確認を行っている。利用者の身体状況の悪化や変化の段階に応じて家族・医療関係者と共に話し合いを持ち、家族の意向に沿って出来る限りの支援に取り組んでいる。看取りを行う場合には事業所・往診で可能な医療的な支援範囲についても明確に説明を行い、十分な理解と協力のもと看取りを行うようにしている。職員も利用者・家族の意向をくみ取り支援を行っていくために看取りに対する指針で研修の機会を持ち職員も不安なく支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に救急救命などの研修を行い緊急時に備えています。</p>		
35	13	<p>○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練には地域の方に参加頂き地域防災訓練にも参加し協力の体制確保に取り組んでいます。</p>	<p>今回の他施設での火災を受けて、消防署と高齢介護課職員が点検に来訪している。年2回昼夜想定での避難訓練を実施している。事業所で行っている自衛消防訓練時には地域の方にも協力・参加してもらい実施出来ている。地域で開催される防災訓練にも参加し、避難場所の確認や地域との協力体制を整えている。災害時に必要な備蓄も行っている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせた個別対応を心がけプライバシーが確保できるような情報管理を徹底しています。</p>	<p>個人情報保護や権利擁護の定期的な研修の機会に高齢者の尊厳について利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーについて振り返り、支援に活かしている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人様の意向を伺い気持ちを理解すると共に思いを表現して頂けるよう取り組んでいます。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人様の生活リズムを大切にし一人ひとりのペースに合わせた柔軟な対応をしています。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご希望に合った身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援しています。</p>	

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お食事の楽しみが持てるよう準備や片付けなど個々に応じて支援しています。</p>	<p>食材の提供を受け各フロアで調理から行い、季節に合わせたメニューや行事メニューなど、献立の工夫をしている。食事の匂いや調理する雰囲気を感じながら家庭的な環境で過ごすことが出来ている。食事レクリエーションの際は利用者の希望を聞きオリジナルのメニューを買い物から各フロアで行い日々の生活の中での食べる楽しみを提供している。外食や店屋物等での楽しみを持つこともある。水分摂取量は各利用者ごとに日々把握している。利用者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて刻みやミキサー・トロミなど食材の硬さやその日の咀嚼や嚥下の状態に応じて調理を工夫するようにしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>カロリーや栄養バランスに配慮した献立を提供し個々に応じた形で提供を行っています。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科医師にも相談の上口腔ケアの支援を行っています。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄が出来るよう誘導や排泄パターンの把握などを行い、できる力を支援しています。</p>	<p>出来る限りトイレでの排泄ができるように利用者一人ひとりの排泄パターンや状況を把握し、声かけや誘導、排泄用品・用具の使用を工夫し支援している。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や運動、水分摂取の大切さを理解し予防に努めています。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>体調面に注意しながら、一人ひとりの希望にできる限り応じ対応しています。</p>	<p>利用者の希望や体調に合わせて気持ち良く入浴できるように支援している。希望に合わせて毎日でも入浴することが出来るように努めてしているが、自ら希望がない方は体調や清潔面に配慮し定期的な入浴ができるように支援している。ADLに低下により湯船のまたぎが難しくなっても安全な入浴支援方法の工夫や介助者を増やして対応している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせて睡眠時間や休憩時間に配慮しています。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>必ず申し送りや連絡を行い服薬の支援が間違いなくできるよう取り組んでいます。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日の家事手伝いやレクリエーションなどで一人ひとりが好まれる暮らしを支援しています。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>希望に添えるよう家族様とも相談し外出の支援を行っています。</p>	<p>外出希望があれば出来る限り速やかに散歩や外出が出来るように支援している。外出や散歩に出かけることを嫌がる方でも家族と相談しながら外出の機会を持つている。近隣の保育施設との交流の機会も持ち、外で過ごす機会を持つようになっている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理は職員でさせていただいていますがその人の思いや力に応じて対応考えています。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>先方のご理解など配慮した上でご希望に応じてして頂けるよう取り組んでいます。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活感や季節感を大切にし、落ち着いた空間作りを心がけています。</p>	<p>眺望の良い窓から自然光が差し込むフロアーは、ゆったりとしたスペースで整理整頓、適切な温度調節も行き届き清潔である。共壁面に行事の写真や飾りつけなど季節感が感じられ、ゆったりと穏やかに過ごせる家庭的な雰囲気作りに工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりのプライバシーに配慮して気持ちよく過ごして頂けるよう工夫しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使われていた馴染みの家具など持ち込み居心地良く生活できるよう工夫しています。</p>	<p>バリアフリーの廊下、室内は清掃が行き届いている。明るく清潔な居室には使い慣れた、日用品等、が持ち込まれ、親しみ易く落ち着いて過せるようになっている。また、家族と相談して利用者の馴染みの物などを置き住み慣れた自宅とのギャップを感じない配慮が伺われる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る事、分かる事の力が生かせるよう標識や手すりなど環境作りに取り組んでいます。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない